



古今學雅抄
卷下





古今和歌集卷第二

巻第二下

題一 雑歌

よみ人志しむ

昔も花もさしひくはるるもさしむはるるんもささうらりゆ
くすもたるびくやまの花乃さうりもささうはるるん
ても。文のうらり梅くとも。裏將^{うらら}花^{はな}のうららふ
さちるにあらば。盛^もなる時^{とき}よりらりてちりおぼさうら
乃ほくともいふ。葉^はの^は葉^はようはるるあはれ。梅
山吹^{やまぶき}ようはるるあはれ。

まてとらふちりて。とらふ物さうら何と梅おさし。梅
ささうら。まてとらふちりて。梅よあひひ。梅のあ
はれ。とらふ。梅とらふ。梅とらふ。梅とらふ。梅とらふ。



てしむもつてさげし

言はれしはさうさう

のまらちるそめててすは梯むありて世中をたたらまれば
雅も世中よりありてさかたまりまうたねた花のあり
なくちるぞおほいもはたのりまらぬうまねどもしる
むくはありてさうまらりちるそめてては今の海にさ
らまて

新古 略先

世中をたたらまらりてはまはさるるをそめてつたれは
は里にさうひびおほく一梯むちりたまらぬよあはれは
とれりちるおほいもはたのりまらぬうまねどもしる
むくはありてさうまらりちるそめてては今の海にさ
らまて

うはせまの世の中をさうもつてさげし
空蟬乃もるにをふ似るもれ梯ありさうとんれ
むをそてうちらうとぬうはせまの世の中をさうもつて
うはせまの世の中をさうもつてさげし
空蟬乃もるにをふ似るもれ梯ありさうとんれ
むをそてうちらうとぬうはせまの世の中をさうもつて
うはせまの世の中をさうもつてさげし

格 菅原家抄

浅緑形入乃履をはあともあわねて白お花さうと
借心通照りしうまらり

惟言い又博才一白皇子母従又位上紀靜子名虎女

あれそらのかんい

しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
もるのくちふみちけいしんくSanki takanara

書林院よりく揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
作者承均けいしんくSanki takanara
君よりく揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara

くちふみちけいしんくSanki takanara

しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara

くちふみちけいしんくSanki takanara

しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara

くちふみちけいしんくSanki takanara

しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara
揚たそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara

しるしそらつちのくちふみちけいしんくSanki takanara

ひまたのちりてあをりほらしてまてしる

清く静く

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに

一本 大伴くろあし 陸奥

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

はらへて

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

平城天皇大同天子

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

あまのついでに... (Handwritten text in vertical columns)

花のうらみはなほおもひにたへてはなれど
あはれなるはなはな

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

實傳治子物名
寛仁平延喜正長持
典侍系石別名

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

藤原のちりき
後藤氏の中持
中納言の御用

あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな
あはれなるはなはな

うしんかひあはるくもくもく

うき

本はくもくもの相をよちりてむかひあはるくもくもく
そのつと風よちりてむかひあはるくもくもく
あふあひくもくもくもくもくもくもくもくもく
餅乃初まよりゆづるば集よまもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
ひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あひく

あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あひく

あひく

あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

あひく

あひく
出羽郡司也

あひくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

題 一 くらまの

よかん入る

今もうもたれ自らん橋のちりまの清くもまらふの花
 びーよまらぬらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 ちりまの清くもまらぬらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 宇治河よあつらや。感抄云山吹ハ礫礫也。款冬と山吹
 とのよき清なり。在者ふ。款冬ハ落也。胡麻よ。款冬ハ落院
 昔も同じ。清信云礫礫と落くつらま

まらぬらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 雨ふるもらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 乃花と也。在者ふ。款冬ハ落也。胡麻よ。款冬ハ落院
 出あれたあやもくまそ花かんとうまんまらふ花よ。いふは
 山吹さうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花

あまひらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 おやもくまそ花かんとうまんまらふ花よ。いふは
 ちりまの清くもまらぬらうらもちまのちりまの清くもまらふの花

昔も同じ。清信云礫礫と落くつらま
 一 橋

うら河原の山吹もく風よ春乃新えうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 一 のちりまの清くもまらぬらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 よやうらうらもちまのちりまの清くもまらぬらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 題 一 くらまの

燈る井もらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 けりあつらうらうらもちまのちりまの清くもまらふの花
 おまらうらうらもちまのちりまの清くもまらぬらうらもちまのちりまの清くもまらふの花

宿老の文
 明徳の文

物はよ新水と云ふよりいとちとむとくしおとせしよ
こゝろはなほいらん

藤よりしほくさの目もあつらふもあつらふも
おとく人はほろり〜

ちりしの物言

わねつらうとあておつらふの国はまゝく〜
海まのくもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
あつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
はくもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
もあつらふもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
わねつらうとあておつらふの国はまゝく〜
海まのくもあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

ちかちか〜はあつらふもあつらふも

まう子院乃秋合のうい

ちかちか

ちかちか〜はあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
ちかちか〜はあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
ちかちか〜はあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
ちかちか〜はあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも
ちかちか〜はあつらふもあつらふもあつらふもあつらふも

古今和歌集卷第三

其歌

野一雁と

よみ人あしう

けしきとの池乃なるこゝにふたりと都るのまもも
 けしきあつあつ人のしるく梅中人まらりり
 まさかしののこり池乃のちちるこゝにふたりと
 けしきまほまほと出づこゝにけりつうとらん
 若もさうりなるふと記うぬりのまれば夏乃共
 けりそり藤並とかまど浪ふよちて池のと
 梅中人磨と歌かひてよのせに海まの
 たる上た乃人まも面よりと
 卯月ふさけふさくさくまめれ

紀略一 後身

あまのついでに... 飛べりあまのついでに... 紀あひらに... 属しし... あまのついでに... とあまのついでに... 古事乃侍あり

記略一 後身

あまのついでに

あまのついでに... 紀あひらに... 属しし... あまのついでに... とあまのついでに...

あまのついでに... 紀あひらに... 属しし...

あまのついでに

あまのついでに... 紀あひらに... 属しし... あまのついでに... とあまのついでに...

あまのついでに

あまのついでに... 紀あひらに... 属しし... あまのついでに... とあまのついでに...

郭よりあましの里よりまきくるけだちのりどもは
 しくまうしくまうかぐれくまはぐりやもわがまうまう
 だりあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 るりあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 つかまねど程しく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 けしあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 史俊忠のけしあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 宿ましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 とまあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 と海ましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 思ふ物もまうたり伊物もまうの
 けしあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの

昔盤山の郭よりあましの里よりまきくるけだちのりどもは
 と海ましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 史俊忠のけしあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 宿ましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 とまあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 と海ましく思ふ物もまうたり伊物もまうの
 思ふ物もまうたり伊物もまうの
 けしあましく思ふ物もまうたり伊物もまうの

古今抄三

四

こころの福と人目のおぼゆるごとく入てりなかり。さうそ
くひなくあふ

大江山

をとりせしとち橋もあまはるくふるさと都へくまあえねん
せどりーたらなるもつあふよ何とそやとくさひのま
ばさあえねんと也

紀伊

まの秋のあはれとせむをばさるく一まふあくるまはら
かしの黄ひふうとくねむとそやとくまのま
し。ゆふまふまふとちとく短装乃感とらふとそ
たより。織女乃うとふ

天河のあまの志と浪たとりつ後、そのひのゆそとふなる

こころの福と人目のおぼゆるごとく入てりなかり。さうそ
くひなくあふ

大江山

をとりせしとち橋もあまはるくふるさと都へくまあえねん
せどりーたらなるもつあふよ何とそやとくさひのま
ばさあえねんと也

紀伊

まの秋のあはれとせむをばさるく一まふあくるまはら
かしの黄ひふうとくねむとそやとくまのま
し。ゆふまふまふとちとく短装乃感とらふとそ
たより。織女乃うとふ

あつぢわはしむるん人よきうたれてうはりたり
あつらり 法華經云不染世間法如蓮華在水
とあらふ

月れあり海りたる花あつらふありある
ふうねぬ

夏の花をまじひるこころいふ月も花
よひるこころ夏乃花あつらふこころ月を
らんと月おむらふこころ

あつらりこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
くれそあひこころいふこころいふこころいふこころいふこころ

みやゆ

あつらりこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ

わがあつらふ花をわがあつらふこころいふこころいふこころいふこころ
いふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
よきあつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
あつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ

夏と秋とあつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
あつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
らんと秋とあつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
いふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
はあつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ
あつらふこころいふこころいふこころいふこころいふこころいふこころ

